非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8　TEL076-251-0014
郵便振替口座 00760-0-15689　会報込年会費 3000 円

2016 年 1 月 20 日　月刊第 210 号　発行／非核の政府を求める石川の会

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1 面　年頭ご挨拶　非核と非暴力　井上英夫
3 面　芸人ジャーナリストの福島原発取材報告　武藤一彦
4 面　奥田知志さん講演要旨　「助けて」と言える国へ
5 面　育鵬社・教科書採択の経過と今後の課題　板坂洋介
6 面　〈リレーエッセー〉　統一すること、手を繋ぐこと　東　孝二　年頭に　飯田慈子
7 面　独標より：夏の影　若松きぬえ　編集室より
8 面　被爆者が描いた体験画展　中田喜重　絵手紙コーナー　田伏久子　非核平和・行事予定

年頭のご挨拶

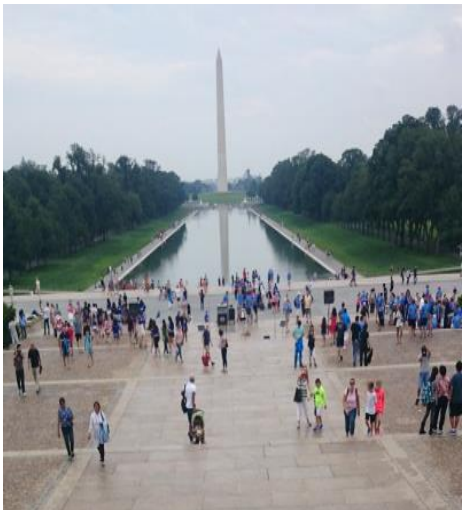
非核と非暴力

井上英夫
非核の政府を求める石川の会代表世話人

新年あけましておめでとうございます。

金沢は暖冬の影響でしょうか。雪なしの正月を迎えました。

「何となく、今年はよい事あるごとし。元日の朝、晴れて風無し」。と啄木は謳いましたが、ＩＳ等によるテロ、難民問題を契機に欧米での極右の台頭など、など、人類の未来を暗くする事態が続いています。



そして、正月には北朝鮮の水爆実験のニュースです。自民党・安倍首相がこれだけ原発再稼働に固執するのは、「核兵器」を持ちたいからだと思わざるを得ませんが、北朝鮮の核は、核抑止力論を強め、戦争法さらに核装備そして徴兵制への格好の口実を与えることになるでしょう。

本当に、水爆なのか、実験に成功したのか。確証もないまま独裁者・金正恩に踊らされる日本政府に情けない思いをしているのは私だけでしょうか。

ともあれ、原発廃止と核兵器廃絶は一体のものであることがますますはっきりしてきたと思います。

核抑止力論と非暴力

非核の政府、核廃絶への最大の関門は、核・軍事力抑止力論だと思います。

（写真上）リンカーン記念堂の演説の場からジョージ・ワシントン記念塔を臨む
（写真下）演説「I　HAVE　A　DREAM」の場所であることが刻まれている

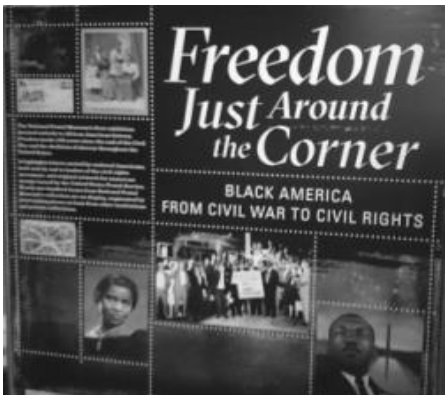
花鳥風月

昨年末に本年七月の参議院選挙に向け、安保関連法廃止を訴える野党統一候補を支援する「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」が結成された。これに尽力された「立憲デモクラシーの会」の中心メンバーの中野晃一さんの発言を紹介する▼「参院選では、全国三二の一人区での共闘が大事になってきますが、本気で選挙に勝とうと思ったら真剣な協議としっかりした合意が必要です。そして、互いに全力で応援する、全力投球のたたかい方をしないとこれは勝てません」▼「市民社会から、そういった野党の動きを積極的に後押しして良い一年となるよう、日本の政治が立憲主義を回復し、民主主義を育てていく、今年がその転換期になったということが、後世から見て分かるような形にできたらと思っています」（赤旗一月三日付・志位和夫委員長との新春対談より）▼五月三日、平和憲法施行記念石川県民集会（九条の会・石川ネット等八団体主催）は中野晃一さんを招聘して開催される。今年の憲法記念日は、戦争法廃止の二〇〇〇万署名の達成とともにすべての参院選一人区で野党統一候補の擁立を実現して迎えたい。（か）

二〇一〇年そして昨年、ニューヨークでのＮＰＴ（核拡散防止）条約再検討会議、平和行動に参加しました。その際、セントラルパーク周辺で署名行動にたちました。核廃絶、平和を求める署名への賛同者は必ずしも多くはなく、強い反発すら招きました。私たちに食ってかかってきた人々の主張は戦争防止のため核、軍事力は必要だと言う核抑止力論でした。

日本でも北朝鮮、ＩＳの脅威等を口実とした「抑止力論」はなかなか強固な支持を得ていて、覆すのは簡単ではありません。私は、国レベル以上に一個人のレベルから考えるしかないと思っています。

戦争の抑止さらには平和のためといいますが、抑止力論は、結局戦争を肯定し、国家と個人による殺人を肯定しているでしょう。



南北戦争から公民権運動まで、黒人の運動は切手にまでなっている。右下、キング牧師

そこで、「あなたは個人として人を殺しますか、人を殺してよいと思いますか」と問うわけです。すると、そんなことはない、と皆さん否定する。人を殺してはならない。暴力を振るってはならない、と。つまり、抑止力論への一つの対応として非暴力を掲げる。個人の非暴力の延長にこそ国の暴力＝戦争・核・兵器＝の否定、絶対平和があるということです。このことをすべての人々が徹底的に認識することこそ核廃絶への近道なのではないかと感じたわけです。

戦争から非暴力運動へ
リンカーンからキング牧師へ

二〇一〇年、平和行動の主たる舞台は、リバーサイド教会でした。公民権運動でアメリカを変えたマルティン・ルーサー・キング牧師が、ベトナム反戦演説を行った場所です。キング牧師は、非暴力主義者でした。そして、昨年、私がワシントンで立ったのは、リンカーン記念堂の階段、一九六三年八月二八日、二十万人のワシントン大行進の際、キング牧師が、私には夢がある（I have a dream）という公民権運動の有名な演説をした場所でした（一面写真）。

キング牧師は、一九六八年四月四日、メンフィスで暗殺されました。黒人奴隷を解放したリンカーンも一八六四年四月一四日暗殺されました。二人とも暴力によって命を奪われたわけです。しかし、南北戦争勝利により奴隷解放を成し遂げたリンカーンから非暴力運動で公民権法を勝ち取ったキングへの一〇〇年の歩みは、人類の進歩を示したのではないでしょうか。

暴力・報復の連鎖を断つ
南アフリカとマンデラ大統領

そして、核廃絶、戦争・テロを無くすためには、暴力と報復の連鎖を断ち切らなければなりません。

南アフリカのネルソン・マンデラ前大統領が思い起こされます。二〇一三年一二月五日、九五歳でなくなりますが、リーダーとして人種差別制度＝アパルトヘイトの廃止を勝ち取り、一九九四年五月一〇日、新生南アフリカの初代大統領になったわけです。その演説を読んだ時、私は震えるほど感動しました。

「We are free now. Black and White is together!」、と人々に呼びかけたのです。

「アパルトヘイトを実施し、これに加担した白人は、土地、財産をとりあげ皆殺しだ」。こうなってもおかしくないのが人類の歴史でした。今でも、人種、民族間紛争で多くの人々が殺されています。

しかし、マンデラさんは、虐殺・弾圧↓権力奪取↓報復＝虐殺・弾圧という負のスパイラル・悪循環を断ち切ろう、一緒に国＝虹の国＝づくりをしようと呼びかけたのです。

平和的生存権と非暴力

人類の明日に希望が持てるではありませんか。日本国憲法こそ非暴力主義に立っている。そして、その非暴力主義が南アフリカで現実のものとなっているのですから。

憲法前文は、「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意し」、「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。」と、平和的生存権を謳っています。

ここに、恐怖とは戦争、テロそして暴力であり、欠乏とは飢餓や貧困です。

キング牧師は、非暴力主義のゆえに同じ黒人（アフリカ系アメリカ人）か

らも非難を受け、自ら暴力の犠牲となり暗殺されるわけです。マンデラさんは非暴力主義でしたが、アパルトヘイトとの戦いの中で軍事路線を受け入れざるを得なくなります。確かに、非暴力を貫くに余りに厳しい現実かもしれません。

しかし、ガンジー、キング牧師そしてマンデラと現代における非暴力主義の足跡をたどると人類の将来に明るい展望が開ける気がします。あらためて非暴力主義の歴史を学びさらに発展させる努力を今年から始めたいと思います。

新春社会保障講演会　ご案内

2016年日本の平和・憲法・人権をめぐる情勢と私たちの課題

○講　師　　渡辺治さん（一橋大学名誉教授）
○日　時　　2月14日（日）13：30～16：00
○場　所　　石川県労済会館大ホール（駅西本町）
○主　催　　石川県社会保障推進協議会
○協　賛　　石川憲法会議、九条の会・石川ネット
戦争をさせない石川の会　（資料代500円）

石川県保険医協会講演会・報告

芸人ジャーナリストの福島原発取材報告

原発を追及する芸人ジャーナリスト、おしどりマコ・ケンさんの講演会の司会をさせていただきました。お二人は「よしもとクリエイティブ・エイジェンシー」所属の芸人さんです。頭の中が全てエネルギーという感じで、原発事故の難しい質問にも、確かな情報を基に的確に答えてくれます。マコさんが主役ですがケンさんも「愛の手」を打ちながら講演を支えていました。

十一月二十九日（日）午後二時。金沢都ホテル・加賀の間は、百六十人余りの聴衆で埋まりました。前日の悪天候から、出足が危ぶまれましたが、そんな心配は杞憂でした。西田直巳会長は開会あいさつにて、「皆さま方の熱い情熱、四年経っても衰えない情熱に喜んでいます。最近は原発再稼働の話も耳に入ってきます。まさに、反原発の活動も正念場に差しかかっています」と話されました。

写真右から
おしどりマコさん、ケンさん

お二人は二〇一一年一月に、大阪から東京へ転居。その三カ月後に地震に遭いました。地震の直後に楽屋で聴くお話は、芸人さんが東京から逃げているということでした。

地震発生の翌日の三月十二日に、マコ・ケンさんは会社の仕事でオーディションを受けていました。その後も、原発の爆発が続きます。同じ楽屋の芸人も、子どもは遠くへ避難させていました。その芸人さんは、子どもたちに再会できないのではと大泣きしていました。新幹線や空港は逃げる人たちで混雑していたそうですが、それが報道されることはありませんでした。報道関係の代表の方が、後にその行為を懺悔したそうです。「一生背負う」と。

報道は信用できないと、連日、インターネット中継されていた東京電力の記者会見に注目し、その経緯をすべてメモしました。それでも東電の説明に納得できず、その会見場に堂々と潜り込んだそうです。

会見を直接聞きながら、初めての質問をしました。「インターネット放送されている原発の現場で、時々吹き出す白い煙は何ですか？」という質問で、「冷やしている大量の水が水蒸気として噴き出しています。放射能も含まれてございます」という本音を引き出しました。「どのくらいの放射能が含まれているか、出してください」と詰め寄ったそうです。三カ月後に回答がありましたが、それは「毎時十億ベクレルです」というものでした。

二〇一一年七月からは、福島県で行われている県民健康調査について取材しています。小児甲状腺がんが増えるに従って、その説明は「スクリーニング効果（放射線による影響ではなく、大規模な検診を行ったことによるもの）」と片づけられていました。しかし、今年になって小児甲状腺がんと診断された患者が五十人を超え、五月に「他のがんに比較して小児甲状腺がんが数十倍多い」との「甲状腺検査評価部会」のまとめを発表しました。国や県の「甲状腺がんは増えていない」という主張は覆されたのです。

聴講者の一人として、原発事故の多くの隠された真実に接し、ただ驚くばかりです。毎年のように自然災害に見舞われる日本という国に、原発利用は適さないという気持ちを、さらに強くしました。

（石川県保険医協会理事　武藤一彦）

◇講演要旨◇

「助けて」と言える国へ

奥田知志さん

日本バプテスト連盟
北九州・東八幡キリスト教会牧師

一一月二九日、奥田知志さんの講演が金沢市内でありました。フランスで起きたテロ事件のこと。シールズのリーダーで息子愛基（あき）さんと家族が脅迫を受けていること。安倍総理の戦後レジウムからの脱却とこの国の危険な状況を詳しく話された後の、『日本の貧困の実態と自己責任論』の講演部分の要旨をお伝えいたします。

貧困問題と雇用制度

ホームレス支援を始めたのは一九八八年からで二七年になり、二〇〇六年ホームレス支援全国ネットワークを、昨年生活困窮者全国ネットワークを立ち上げ支援活動をしています。

一九八八年の雇用状況は労働人口の正規雇用が八五％であった。だからホームレスの人たちを「真面目に働く気が無いのでしょう」「そんな人たちの支援をしても上手くいかない」と周囲から言われました。

当時のホームレスは殆どが日雇い労働者で、安定雇用でなかった人たちでした。周囲からの批判は一面では当たっていました。

一九八〇年代から一九九〇年代初めは終身雇用をベースにした中間層が多く安定した社会と言われていました。日本型社会保障制度といわれ、サラリーマン・ベースの社会保障構造を基盤にしたもので、男性社員に家族分の手当てを支払い、配偶者は家庭内労働と位置付け、社会保険、雇用保険、企業年金も会社が払う概念だから、年金もそのような仕組みになっています。非正規雇用は労働人口の一五％でその中心は主婦のパートでした。

今年一〇月、非正規雇用が六〇％を超え、この三〇年で雇用制度は崩れました。

年収二〇〇万円未満は労働者の三〇％おり、二五〇〇万人となっています。この人たちは働く貧困層＝ワーキングプアと言われています。

有効求人数の中身の六〇％が非正規の募集であり、二〇一一年調査では二四歳以下の男性労働者の四九％が非正規雇用で女性は更にひどい状態です。

今の社会構造のモデル

英国、鉄の女と言われたマーガレット・サッチャーさんが一九八七年一〇月ある雑誌で「あまりにも多くの人たちが、もし問題があるなら、それを片付けるのは政府の仕事だという理解をしてきた。それには問題があり給付法（日本の生活保護法）で俺は問題があるホームレスだから政府に家を貰う。皆な社会に問題をさらけ出すのです。しかし社会というものはありません。個人だけ、男と女だけ、家族だけが存在するのです。政府と言ってもそれは人々を通してしか、何も出来ないのであり、自分を頼りにするのが先決なのです。自分自身の面倒、そして身内の面倒をみることが義務なのです。人々は権利ばかりを主張します。沢山主張されます。義務を果たさなければ権利というものはないのです」。

社会はない、あるのは個人。これがサッチャーイズムである。この言葉を丸呑みしたのがアメリカと日本であり、日本社会が大きく変わって行ったのはこのサッチャーイズムの発言があった後からです。

公助の無い自己責任論

サッチャーイズム後、世界が変わって行きました。競争原理が生んだ規制緩和や雇用システム社会は無責任に変わって行きました。一方で「自分が（あなたが）選んだのだから、ちゃんと責任を果たしてよ」と自己責任論が台頭してきました。

ホームレス支援の人たちに自己責任論を話すと「ハローワークへ行くと、住所は？と先ず聞かれる」。

自己責任を果たせない現実が目の前にあります。「風呂へ入れよ・食事を摂れよ・住まいを与えるよ」などがあってからの自己責任なら理解できますが、今の社会は個人の責任にして誰も責任を取ろうとしません。

公助の無い自己責任論は危険です。

戦後の日本は種々の公助制度をつくってきました。国民皆保険制度や生活保護法がそうでしょう。

経済徴兵制が現実に

アメリカは一九七三年徴兵制を止めました。イタリア、ドイツも二〇〇〇年で止めています。

単に無人機をつくるという問題でありません。戦争は最終的には陸上部隊を投入しないと勝てません。

経済的に生活に追われたアメリカ国民は生活費のために戦争に行かざるを得ない状況があります。

更にアメリカの軍隊の補充に派遣会社が集めた青年たちを連れていきます。

戦死した兵は下請け会社の派遣ですから、国家補償は一三〇万円でした。

アメリカの貧困層の学生は卒業時、借金を四～五〇〇万円抱え、就職が出来ない学生は軍隊へ入り借金を返済しています。

今、自衛隊でもそんなことをやり始めました。「自衛隊に入りませんか。奨学金を出しますから」と苦学生を求める募集です。学生のほとんどが償還奨学金の借金を抱えて就職することになりますが二人に一人は非正規雇用の現実があります。

自衛隊の定員は二十四万七千人で二万人以上（二〇一三年）不足しています。防衛大学出身者が多く占める幹部自衛官は充足しているが、下級自衛官は七五％で不足しています。この自衛官を補うのが経済的徴兵制です。

アベノミクス三本の矢

第一の矢・大胆な金融緩和政策＝借金政策。第二の矢・機能的な財政政策＝公共事業政策。第三の矢・民間投資を喚起する成長戦略でしたが、第三の矢は元々無かったのでないか疑いたくなります。

小立野・犀川ロード九条の会・のぼり旗

今、三本の矢の総括がされないまま、新三本の矢が唐突に出て来たことを国民誰もが疑問を感じています。それよりも、第四の矢・軍需経済が密かに用意されていたのでないでしょうか。

貧困と孤立

ホームレスは社会的孤立であり、ハウスレスは経済的物理的孤立です。

厚労省の調査によると、三〇歳の男性の正規雇用の既婚率は五七％、非正規雇用の既婚率は二四・九％で、経済的困窮は社会的困窮を招いています。

社会的困窮・貧困から孤立が生まれ、誰のために生きるのか、誰のために働くのか労働の意味が分からなくなる。生きがいは労働から生まれます。

新幹線車内で焼身自死をした老人は四〇年働き年金を払って来たが手にする年金は十二万円。

家賃を払ったら、食えない、暮らせないことが問題です。

夫婦だったら何とかなるが単身になったら生活出来ない、そんな社会がおかしい。

三一歳フリーターの話。「日本が軍国化し沢山の人が死ねば日本は労働力が流動化する。多くの若者がこれを望んでいるように思う。やる気が無いと罵倒されるが、社会から何の援助も無かった。平和が続けばこのような不平等が一生続くのだ。この閉塞状態の打開、流動性を生みだしてくれるのは何か、その一つは戦争である。格差社会において戦争はタブーではない」。

戦争になったからと言って格差が平等に変わることはありえない。しかしここまで若者に言わせる不平等社会に今なって来ているのです。

北九州市で中学を卒業し進学も就職もしない子が毎年一〇〇人います。一五歳から一九歳まで五年間にすると五〇〇人になります。

この子たちの訪問学習支援組織をつくっています。食事、仕事と勉強の援助、夜のカフェ（談話が出来る場）や居場所、等の企画書を持って市役所へ行ったら「これを備えているのはヤクザの世界ですよ」と言われました。

派遣会社の点呼風景を見る機会がありました。名前を呼ばず〇〇番、〇〇番、〇〇番と番号で呼ばれる。誰でも良い。替わりはいる。いやなら辞めろ。生きるための複数のアルバイト。

人間の尊厳は今やありません。

この延長線上に戦場が

アメリカ軍の傭兵であった日本人の話。「イラクへ行った。兵士たちの中では政治的な話は一切出来ない。上官に見つかったら腕立て伏せ千回の罰。下手すると軍法会議。思考をシャットダウンした方が気持ちは楽。マスコミは兵士たちの愛国心とこの戦争の正義を報道していたが多くの兵士たちにとって生きるための手段でしかなかった。『さっさと銃を撃ち、さっさと殺って、帰る』兵士たちの思考は無機的、感情は邪魔。懺悔の気持ちも感慨も無い。パートやアルバイトで働くことと変わらなかった。感情は邪魔。肉体労働も戦場の戦も同じだった。追い詰められた選択肢の一つが戦場であった。イラクから帰り命の価値を考え始めた。間違っていたと反戦運動に入った」。

戦争遂行三つの無

①お金が無い。②仕事が無い。③思考力が無い。

貧困と雇用の問題をきちんと理解しないといけません。九条を守る運動だけで戦争は止めることはできません。

（文責：講演会事務局）

・・・・・・・・・・・・

◎この講演会は小立野・犀川ロード九条の会と金沢キリスト教会が主催、石川県宗教者平和協議会の協賛で開催されました。

非核・平和のひろば

育鵬社版「歴史」教科書採択
全国トップの異常！
教科書採択の経過と今後の課題

板坂洋介

昨年九月一日金沢市と加賀市（小松市は二日公表）の教育委員会が来年度から使用する中学校社会科教科書（歴史・公民）は、安倍政権の支持基盤でもある「日本会議」の後押しで結成された「新しい歴史教科書をつくる会」の元メンバーや新たな「教科書改善の会」と「日本教育再生機構」支援による育鵬社版教科書が採択（金沢は歴史のみ）されたと大きく報道されました。

新規採択では▼加賀市六校＝歴史（育鵬社）六〇〇冊、公民（育鵬社）六〇〇冊、▼小松市一〇校＝歴史（育鵬社）一一〇〇冊、公民（育鵬社）一一〇〇冊、▼金沢市二四校＝歴史（育鵬社）四〇〇〇冊、▼私立星稜中学＝歴史（育鵬社）七〇冊となり、歴史の採択率五三・一％は全国一位です。

（注）四年前は歴史三・七％、公民四・〇％で今回の目標は一〇％でした。育鵬社版の全国の採択率は歴史 約六・一％、公民約五・六％。

石川での政治的介入の動き

しかし、振り返ってみれば四年前から全国どこの地区でも育鵬社版採択の危険性はあると全国教科書ネットの運動の中で言われていました。

石川県内の各議会内での日本会議メンバー議員の比率は全国的にも高く北陸地区では突出していました。二〇一四年二月定例県議会で自民党二五人、公明二人、その他三人が提出した「適正な教科書採択のため公正な教科書検定を求める意見書」が採択され、同時に「国会に憲法改正の早期実現を求める意見書」も全国で一番早く採択されています。併せて日本会議石川県支部より提出された「教科書採択に関する市町教育委員会の意向を尊重することを求める請願」が採択されています。五月の定例県議会では、教科書採択に関する小松単独選択地区移行に関する質問に対して、県教委は「調査意見」として前向きの回答をしています。そして五月二八日、県教委は小松、能美、川北の三市町共同採択地区から小松市の分離を認めました。

他方、二〇一五年四月一日地方教育行政に関する法律の一部改正を受け、石川県は六月三日に健やかで実行力ある教育行政を推進する「総合教育会議」を設置するとともに、従来の教育委員長と教育長を一本化した「新たな教育長」を議会の同意を得て首長が任命することとなりました。併せて全ての市町村で「新しい教育振興基本計画」策定が義務付けとなっています。

このように国による教育統制が強まるなか、金沢市の教育行政の基本方針を協議する「総合教育会議」が五月二五日に開催され、山野之義市長は中学校教科書採択について「偉人を通じて歴史や文化、街を知ることができる。偉人に焦点を当てたものが良いのでは」と（暗に育鵬社版をさす）意見を述べているのです。

採択決定の三市教育委員会議事録から見えるもの

情報公開で入手した金沢市、小松市、加賀市の教育委員会議事録等の資料から判明したのは、金沢では歴史教科書は教育委員による採決結果は四人が育鵬社、三人が帝国書院。小松では五人とも育鵬社。加賀では四人が育鵬社、一人が帝国書院でした。公民教科書では小松と加賀が同じ育鵬社です。

最終決定に至る経過や資料によれば共通していることは、教科書選定・審査の前段階で調査委員会・研究委員会や採択委員会の委員の多数意見や教科書展示会に参加した市民の多数の意見や答申・報告を無視ないし軽視して、市長の任命による教育の専門家とは言えない教育委員（小松と加賀では日本会議派の神主の委員に交代させている）五人～七人で政治的・独断的判断による多数決で最終決定していることです。この事実は明らかに政治的介入で不当なものであります。

これからの課題

しかし、私たちの市民の側にも弱点はありました。採択された地域は全国的にも教科書ネットの会員がゼロや少ない地域で、市民運動として育鵬社や自由社教科書の問題点を広げきれなかったことが共通した特徴です。

この教訓から、私たちは地域の子どもたち、教員、保護者、市民の皆さんに対する持続的取り組みが重要です。次回の中学校教科書の採択は二〇一九年ですが、道徳の教科化によって二〇一七年に小学校道徳教科書の採択、二〇一八年に中学校の道徳教科書の採択があります。育鵬社は道徳教科書を発行します。

来年に再び教科書採択のたたかいがあることを住民に広く知らせ、この春から取り組みを強める必要があります。

（いしかわ県民教育文化センター理事長／子どもと教科書石川ネット事務局長）

非核石川の会　リレーエッセー

統一すること　手を繋ぐこと

あずま　こうじ

撫順戦犯管理所でおきたことは、人育ちの典型です。戦犯軍人を教育する。「おしつけない」「暴力を使わない」「自ら反省するまで待つ」死刑になっても仕方がない人達も含めて、心から反省したら帰国させるという方針で戦犯に対応した。恐らく今後の世界史の中でも起き得ない快挙だと言えるでしょう。あまりきれいすぎて信ずることがむずかしかったが、今回、朝鮮人所長の回想記を読んで納得した。教育する側もされる側も、共に育ったのだということです。

統一戦線を組むということも、ともに信じ合うことと共に育つことがないと、必ずニセモノになるということです。

人類の宿命かと思う程、軽蔑、バカにする、差別という感情をなくするのはむずかしい。国という形が生まれた時から差別が生まれた。近代民主主義の時代になって原則として差別は否定されているがどうでしょう。

例えば、ヘイトデモをしている人達をみて、理性・知性の欠如を感じてしまうが、それに侮蔑の感情を含ませていないだろうか。侮蔑では話し合いは成立しません。

ヨーロッパ諸国があすこまで中東諸国を傷つけたのは差別でしょう。空爆という非人道的な無差別攻撃ができる感覚は、人類として認めていないということです。

結論を書きます。統一するということ、手を繋ぐということは信じ合うことです。撫順で信じ合うことができない関係だったのに、お互いに変化しあって、育ち合いが生まれた。統一戦線を組むというのはお互いにゆずりあってはじめて成立します。どちらかが、或いはどこか一つがこだわったら成立しません。統一戦線が組めたらどこも育ち合って成長します。勝ち負けじゃありません。人類として成長することです。手を繋ぐというのは、ただ手がつながっているということではなくて、人として成長することです。

年頭に

飯田慈子

年賀状をかきました。

「賀春

春の苑　紅にほふ　桃の花

下照る道に出で立つ乙女

大伴家持

これでもか、これでもかというように、不穏な世界が続いています。皆さまのご健勝をお祈りします。

さて、冒頭に掲げましたのは、孫娘桃子のことで、目下、大学入試に邁進しています。小学校入学時に植えた桃も大きく枝をはりました。若い人たちに幸多かれと祈るばかりです。・・・・」

ところで、かえってきたのは、北朝鮮の水爆実験でした。

詩人会議かなざわ「独標」より

夏の影

若松　きぬえ

せみの亡骸を埋葬する
夏休み
八月六日　登校日
黙祷
かまどの火の番をしながら
本を読む
貧しい少女の物語
蛍
遠浅の海
祭りのカネとタイコ
働く仲間たちと
キャンプファイヤー
〝原爆許すまじ〟を
くりかえし歌う
恋を語る
夢
青春
ふるさとの祖父母　父
戦死した伯父たちの
墓参り
子は巣立ち
義父母の介護は終わり
さて
今
生かされている一人ひとりの
後ろには
七〇年前の炎天下
黒くくっきり残された影が
ある
命を守れ
平和を守れ
影は鏡となり
人の心を映している
本当のおまえで生きているか　と
問うている

《編集室より》

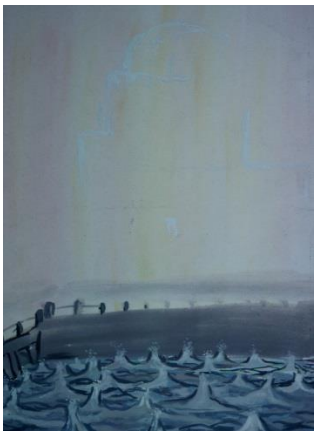
◎会員各位からの募金や本会「リレーエッセイ集」への評価など、嬉しい悲鳴のなか新年を迎えました。皆さま本当に有難うございます。一方で原発再

稼働を容認する司法や首長、北核実験、南沙領有権、宜野湾市長選など、年始早々から未来を左右する事案が錯綜しています。中でも夏の参院選は衆参同日選も取り沙汰される一大政治決戦。もし後者なら日本の命運が決します。【立憲主義】を回復し【個人の尊厳】が守られる国会をつくるのは好き嫌いとは別次元。誇り高い主権行使で〝新〟日本元年としたいもの。言訳無用の悔いなき一年に。（中）

「被爆者が描いた体験画展」⑯

石川県原爆被災者友の会　中田喜重

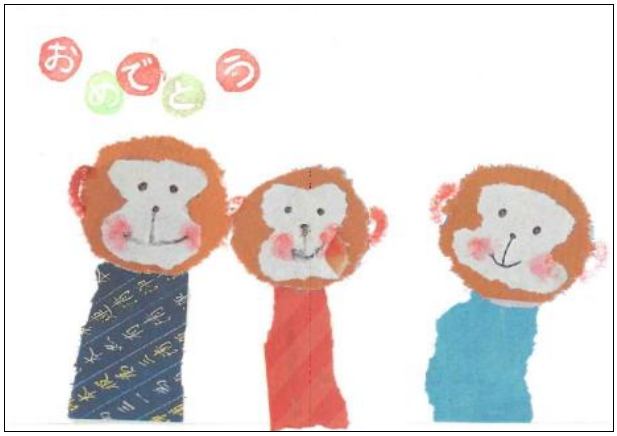
原爆爆発の中心温度は二千度
すべての生物は、瞬間に蒸発した



川の水は沸騰して、四〇センチぐらいの波がうまれた。それらは水蒸気となって上昇し、上空で水滴になり、一部は「黒い雨」となって市内に降り、大部分は数十キロ遠く離れた県外に降った。

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班　田伏　久子



長崎市・三菱造船幸町工場

原爆の炸裂により、火災を起こす工場と周辺を走っていた電車の状態

≪非核平和・行事予定≫

月	日	曜	時	内容	場所
1	26	火	18:00	非核石川の会「会員エッセ-集」出版記念祝賀会	KKRホテル金沢
	28	木	18:30	平和団体・新春のつどい（講師　須藤春夫さん）	いしかわ平和と労働会館3階ホール
	31	日	10:00	北陸原水協学校in石川（講師　田中熙巳さん）	金沢市香林坊石川県教育会館2階
2	3	水	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口
	9	火	12:00	核廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町Mza前
	11	木・休日	13:30	「建国記念の日」反対　平和と民主主義を考える集い（講師　田口昭典さん）	金沢市近江町交流プラザ4階集会室
	14	日	13:30	新春社会保障講演会（講師　渡辺治さん）	金沢市労済会館3階ホール
	17	水	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口
	19	金	16:00	戦争法廃止・ピーステント	金沢市四高記念公園・中央口
	27	土	19:00	石川県保険医協会第42回総会記念講演（講師　高橋源一郎さん）	金沢都ホテル・地下2階セレモニーホール
	28（日）～3月1日（火）			3・1ビキニデー　問合せ：原水爆禁止石川県協議会へ	静岡県静岡市・焼津市
3	2	水	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口
	6	日	13:30	原発ゼロ・志賀原発廃炉を求める石川県民集会	金沢市香林坊石川県教育会館3階ホール
	11	金		2011年福島第1原発炉心溶融事故発生日	
	16	水	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口
	19	土	14:00	戦争法廃止・ピーステント	金沢市四高記念公園・中央口
	30	水	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口

＊ 祝日は休日としています　＊毎週金曜日18：30　どいね原発アピール行動　金沢駅東口

＊ 戦争法廃止・昼デモ　隔週水曜日に行動

＊「戦争法廃止・ピーステント」は、毎月19日（強行可決された日）に・2016年7月の参議院選挙まで実施されます